



ズワイガニ（日本海系群B海域）①

資料 1-4

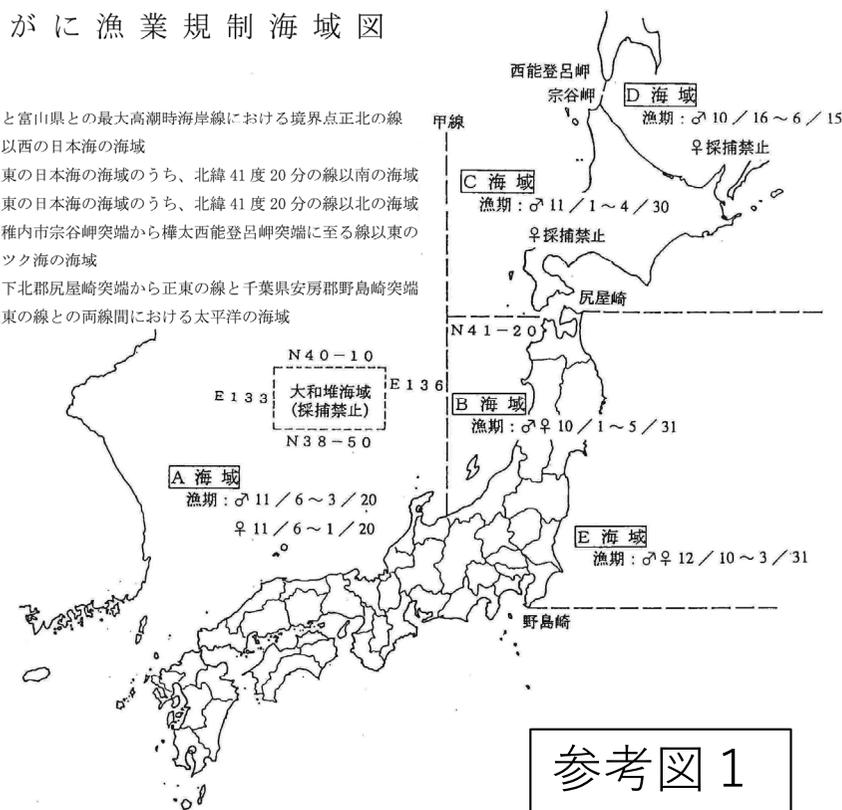
ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本評価群はこのうち本州日本海沿岸の新潟県以北秋田県以南に分布する群である。本海域の漁獲量や資源量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。漁期は10月～翌年5月。



ずわいがに漁業規制海域図

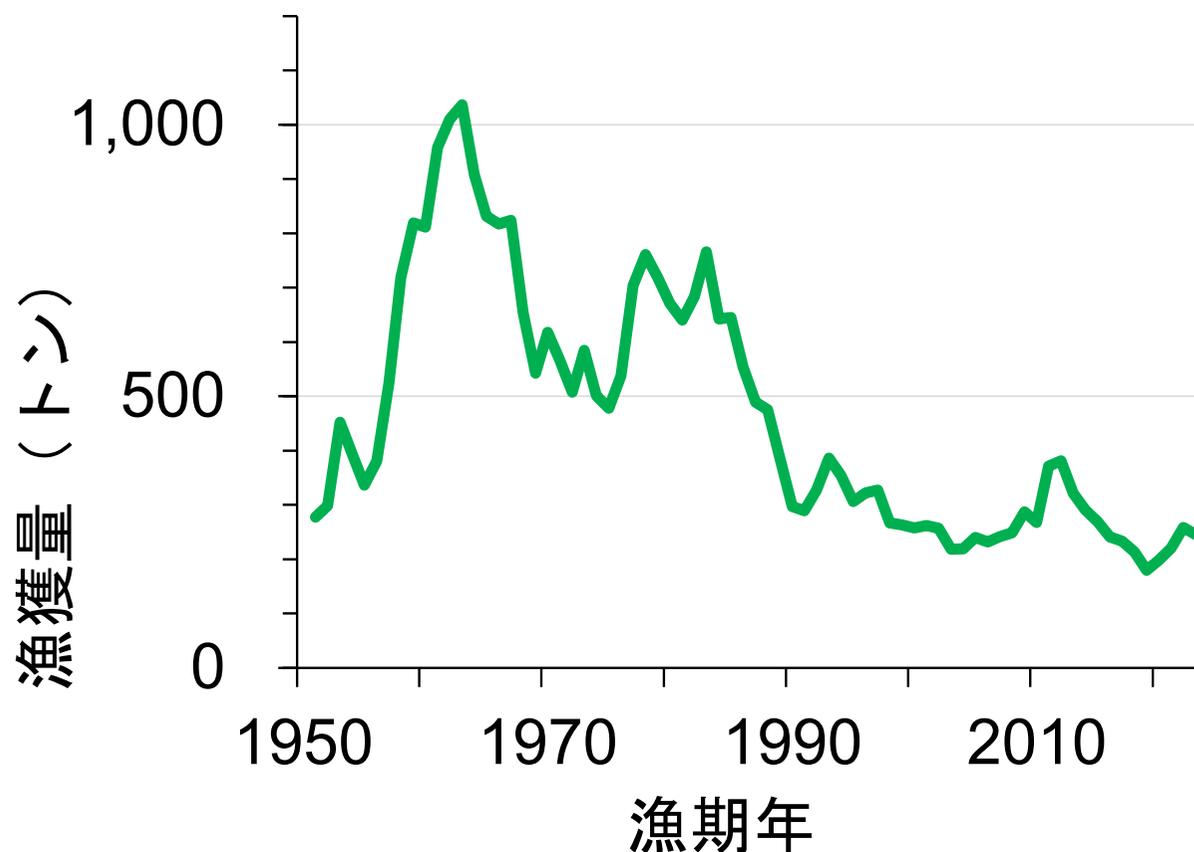
[規制海域]

- A海域；新潟県と富山県との最大高潮時海岸線における境界点正北の線（甲線）以西の日本海の海域
- B海域；甲線以东の日本海の海域のうち、北緯41度20分の線以南の海域
- C海域；甲線以东の日本海の海域のうち、北緯41度20分の線以北の海域
- D海域；北海道稚内市宗谷岬先端から樺太西能登呂岬先端に至る線以东のオホーツク海の海域
- E海域；青森県下北郡尻屋崎先端から正東の線と千葉県安房郡野島崎先端から正東の線との両線間における太平洋の海域





漁獲量の長期的変化



(1998年以前は暦年の値)

図2 漁獲量の推移

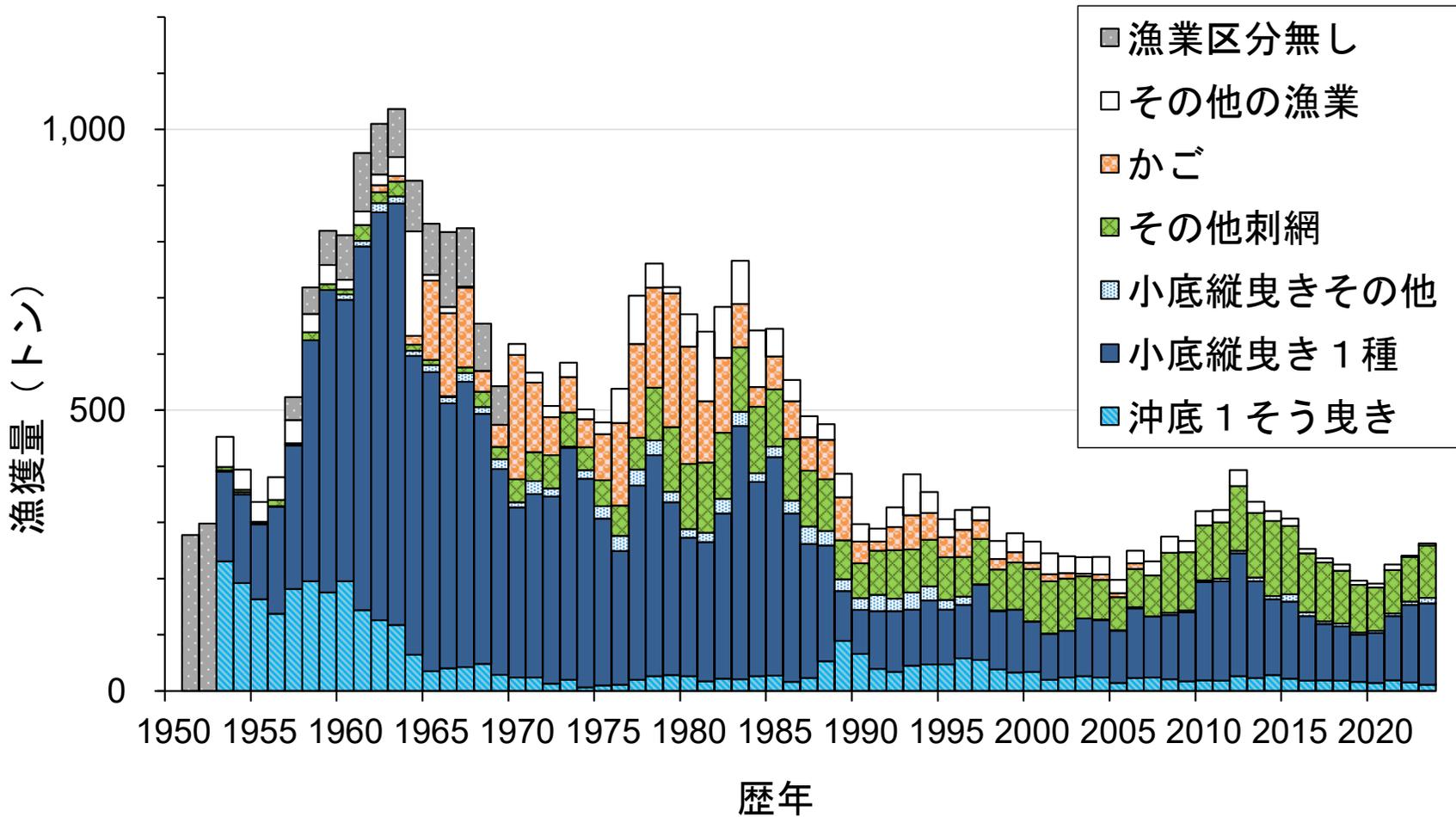
漁獲量には、1960年代に約1,000トン、1980年代に約800トンのピークがみられる。

その後は減少し、1990年代以降は200～400トンで推移している。

2023年漁期の漁獲量は246トンであった。



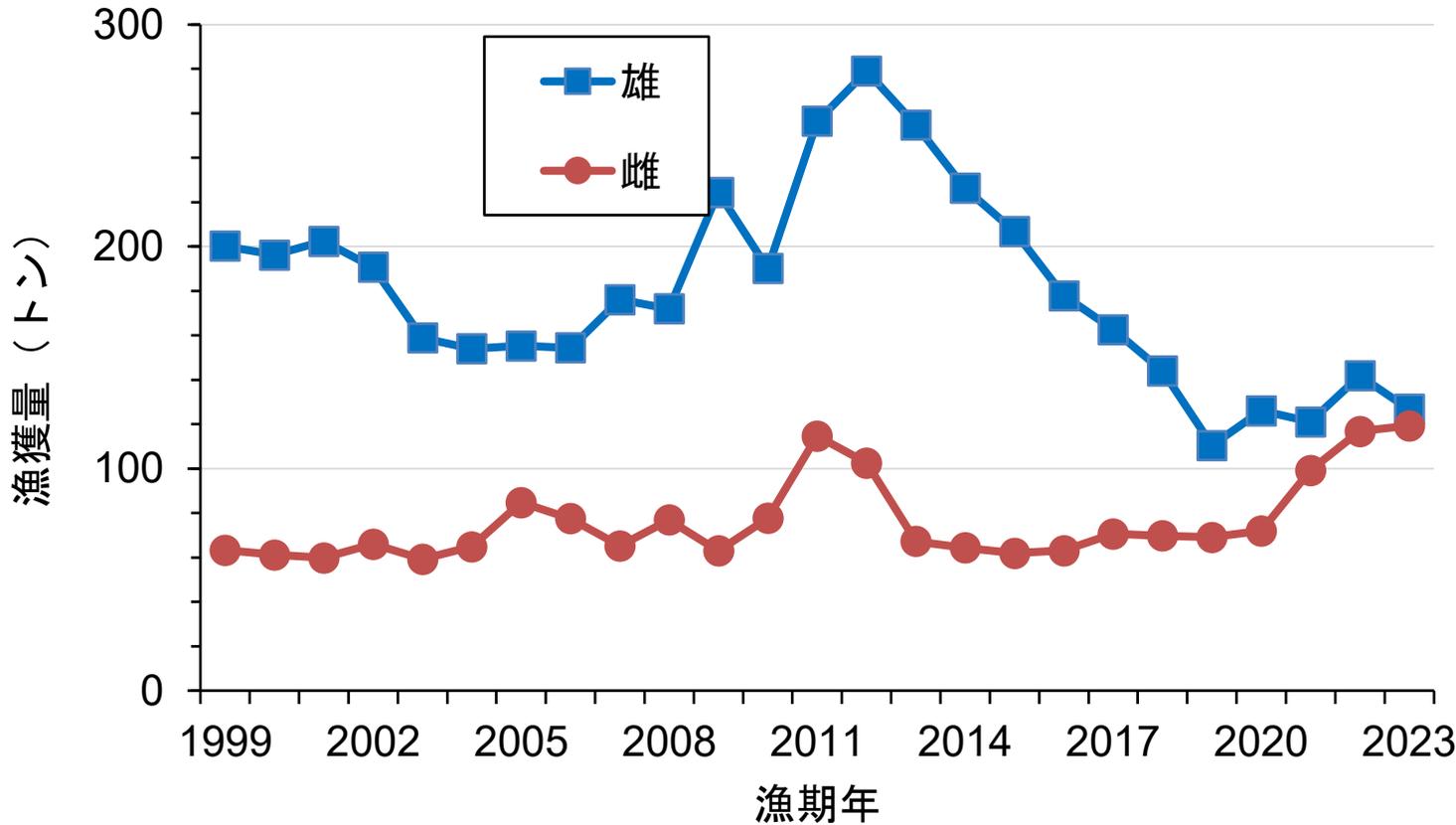
漁獲量（漁業種類別）



参考図2（詳細版図3-1）ズワイガニの漁業種類別漁獲量（暦年）



漁獲量（雌雄別）



参考図 3 （詳細版図3-2）ズワイガニの雌雄別漁獲量（漁期年）

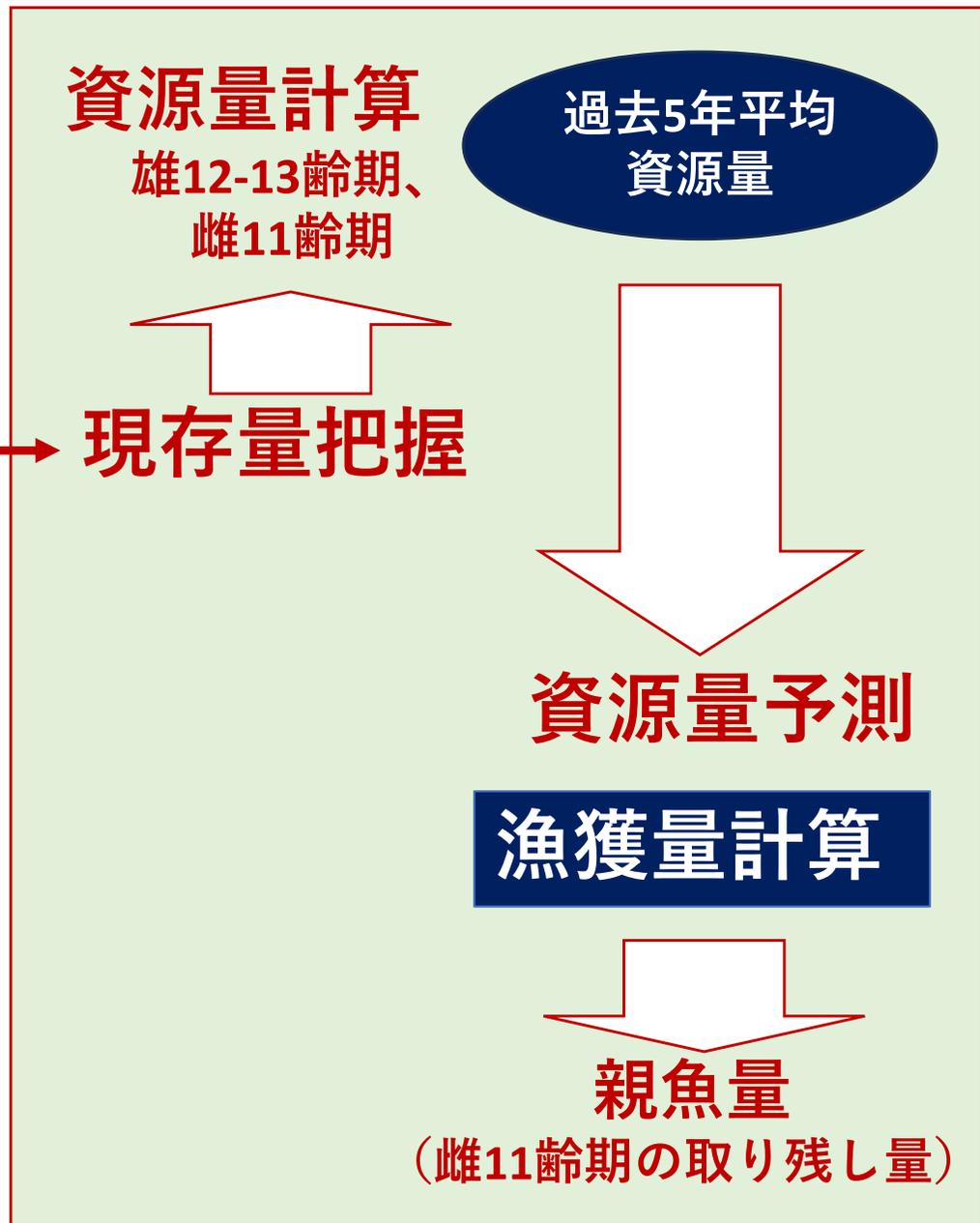
* 漁期年（7月～翌6月）



資源評価の方法 (調査船調査・漁獲スケジュール)

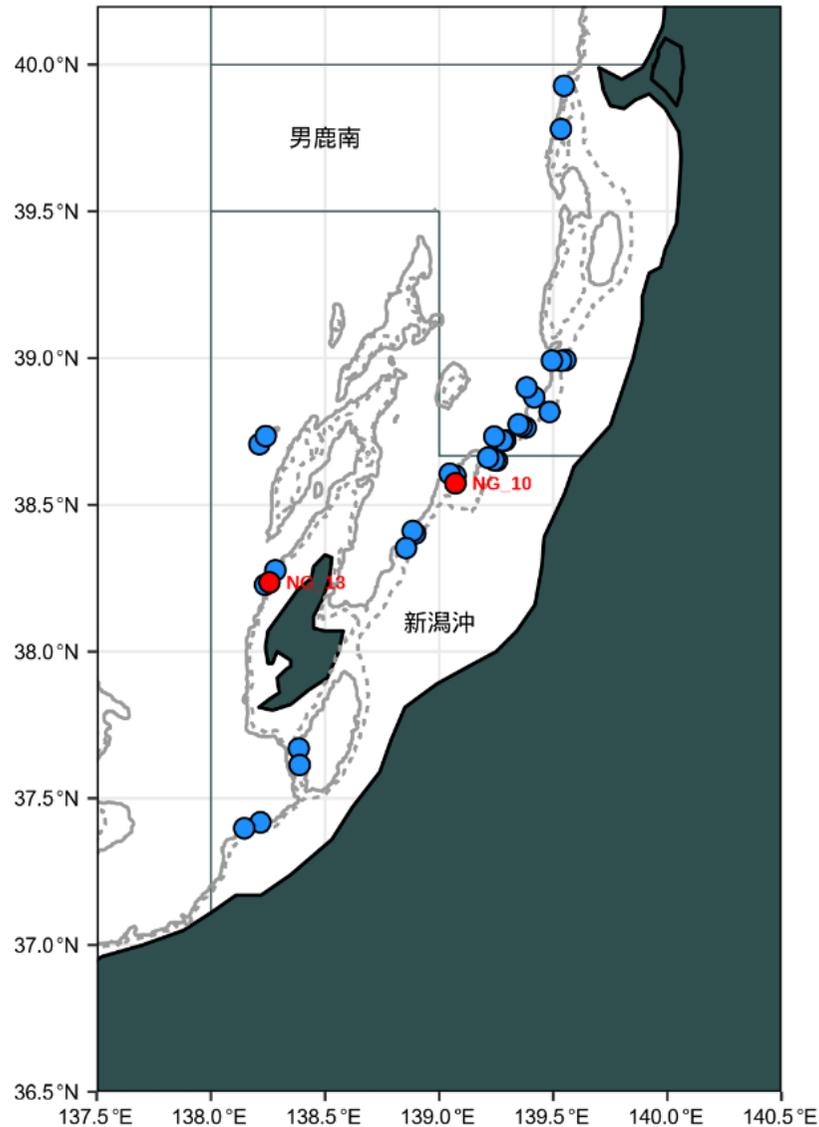


現状の漁獲圧 (2024年の予想漁獲量)
漁獲シナリオ (2025年のABC)





調査海域図 (かにかご調査)

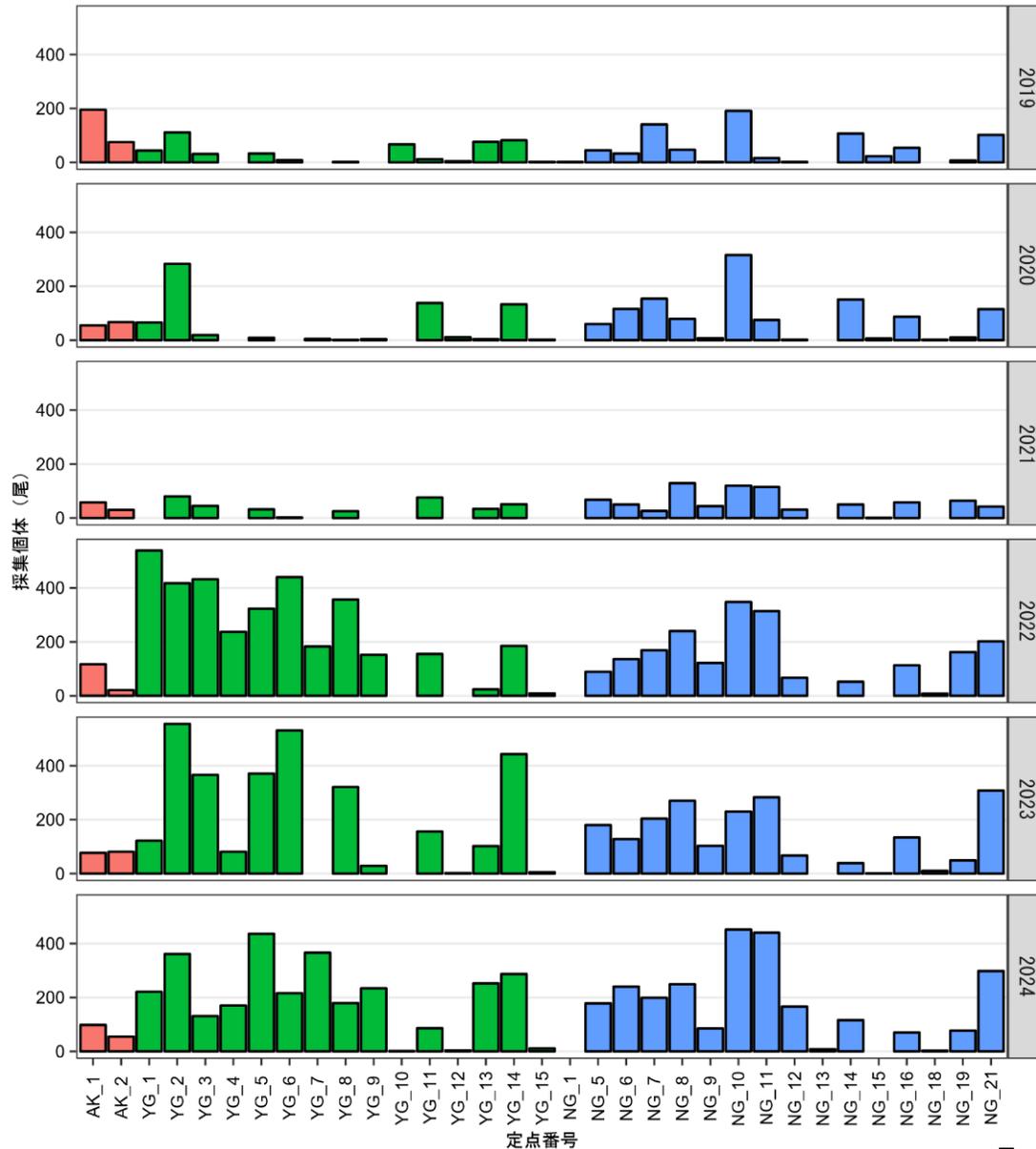


参考図 4 (詳細版補足図2-1)

2024年かご調査の調査点
赤丸は特異点として解析から除外
した定点を示す。



採集個体数：雄（かにかご調査）

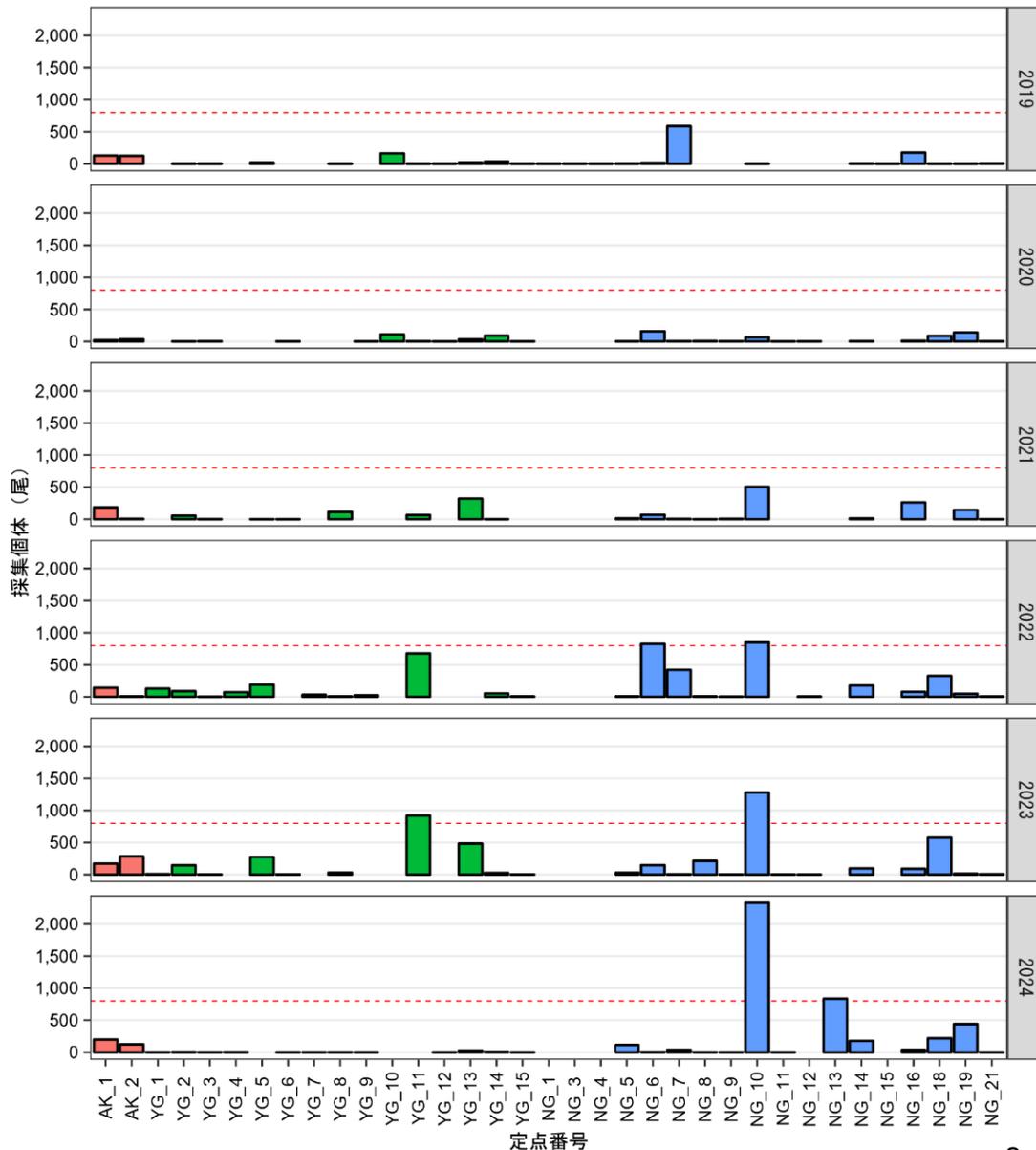


秋田
山形
新潟

参考図 5 （詳細版補足図2-3）
甲幅90 mm以上のズワイガニ雄の定点別採集個体数



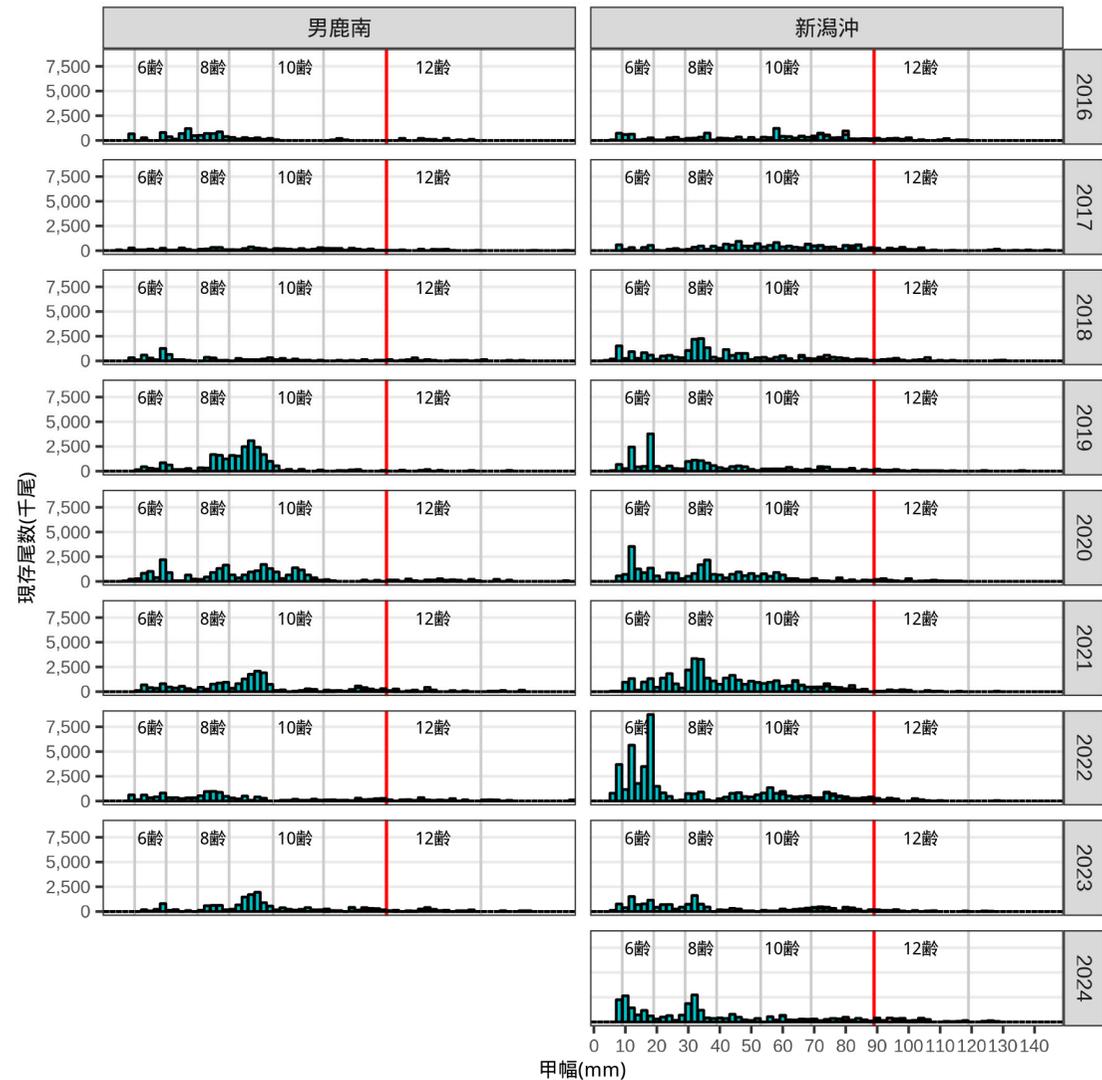
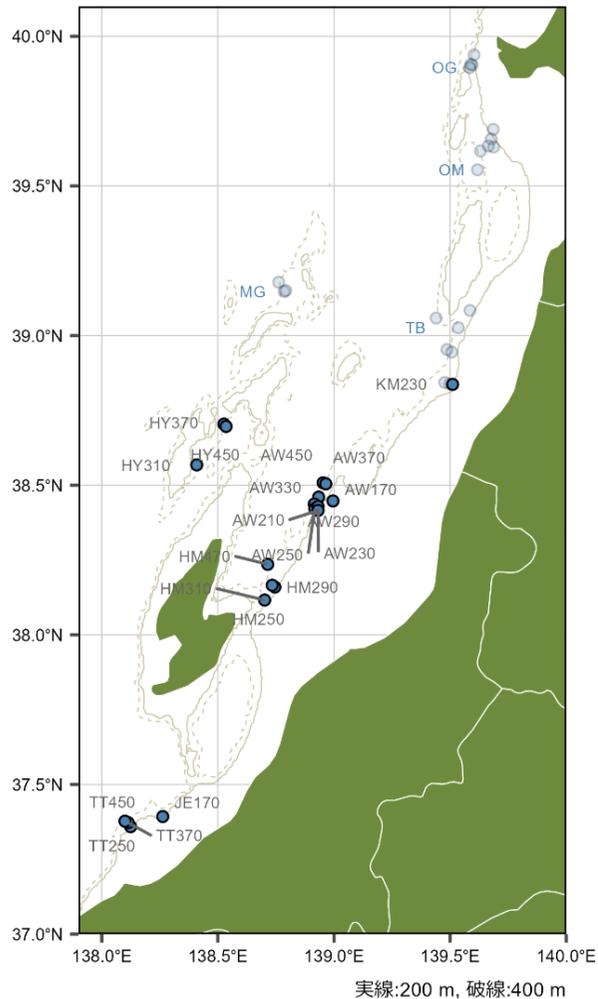
採集個体数：雌（かにかご調査）



参考図6（詳細版補足図2-4）
ズワイガニ雌11齢の定点別採集個体数
赤破線は解析から除外する閾値（800尾）を示す。



桁網調査による甲幅組成（雄）

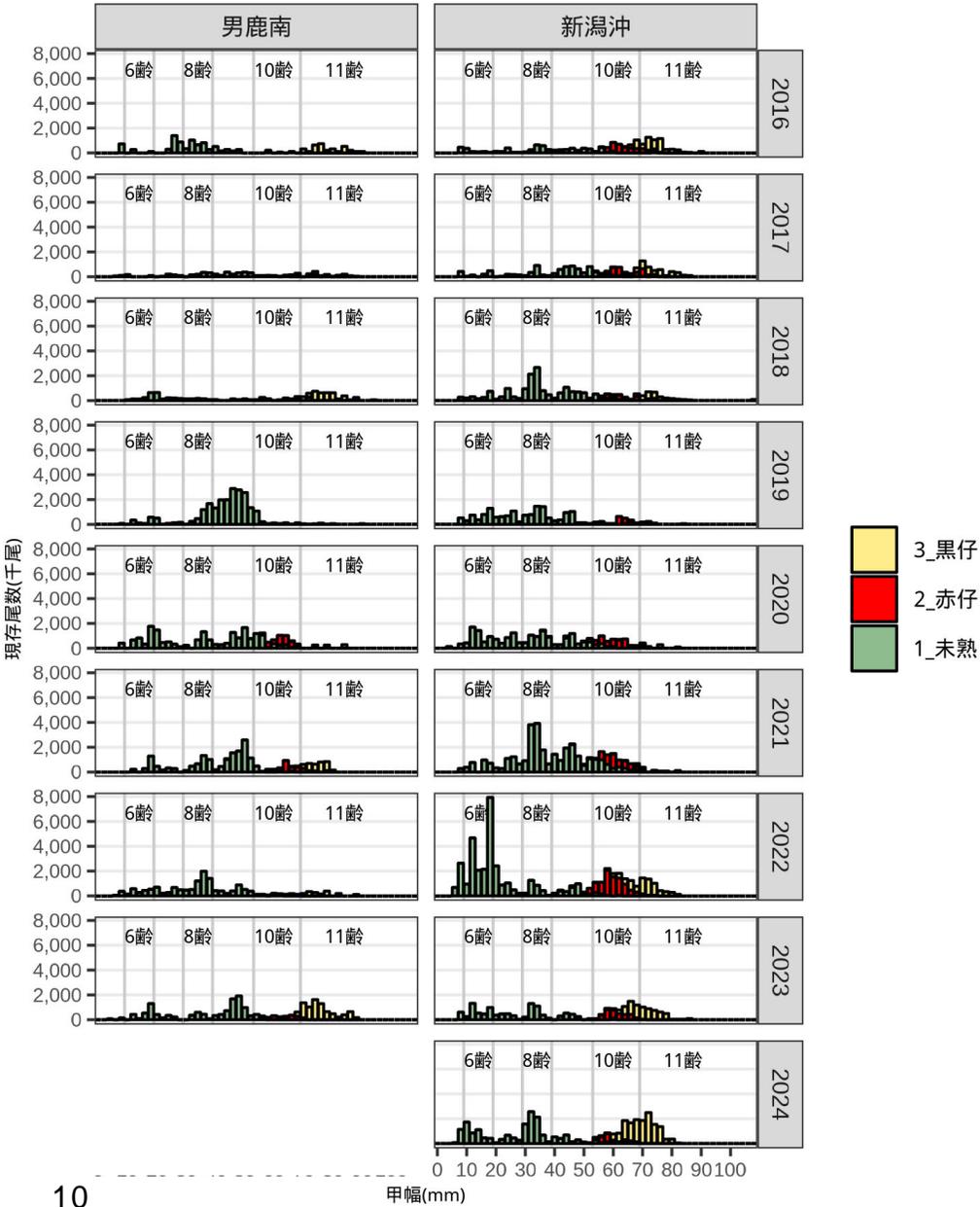
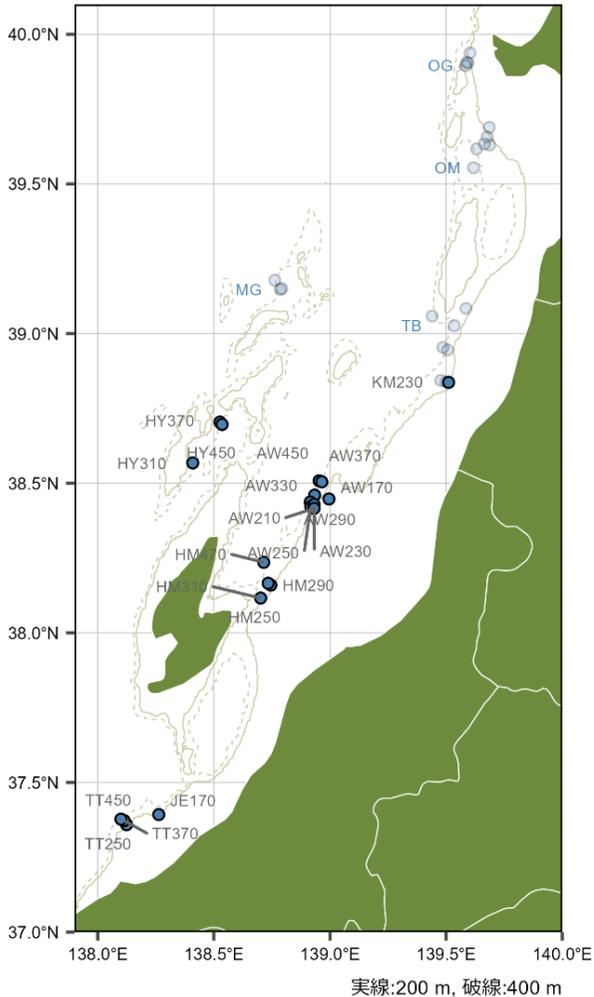


参考図7（詳細版補足図5-1、5-2）
桁網調査海域図と雄の甲幅組成

赤線は漁獲対象となる甲幅90 mmを示す。



桁網調査による甲幅組成（雌）



参考図 8 (詳細版補足図5-1、5-3)
桁網調査海域図と雌の甲幅組成



資源量（雌雄別）

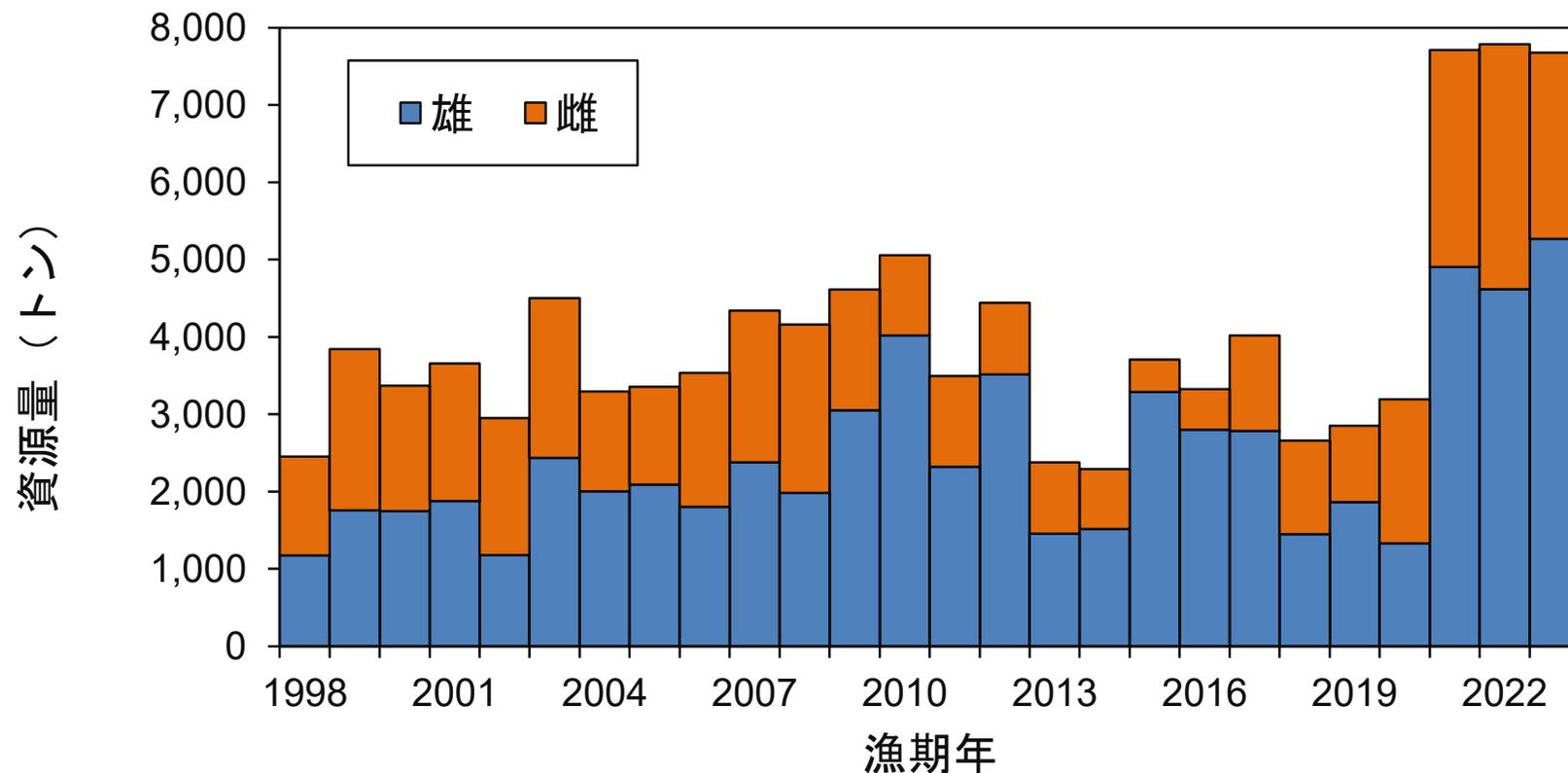


図3 資源量の推移

かご調査で推定した漁期開始時点の資源量の推移を示した。雄は甲幅90mm以上、雌は成熟個体の合計を示す。

雌雄合計の資源量は、1998年漁期以降は2,300～5,000トンで推移している。2010年漁期に5,000トンを超えたが、その後減少し、2014年漁期は過去最低の2,300トンとなった。2017～2020年漁期は2,700～4,000トンで推移し、2021年漁期より急増し、2023年漁期の資源量は7,678トンであった。



漁獲シナリオ

令和3年3月に開催された「資源管理方針に関する検討会」および「水産政策審議会」を経て、本評価群は再生産関係が不明であるため、MSYを実現する水準の漁獲圧（ F_{msy} ）を、加入量当たり親魚量が漁獲圧が0の場合の値に対し30%となる漁獲圧（ $F_{30\%SPR}$ ）により代替すると定められた。

漁獲管理規則は $F_{30\%SPR}$ に不確実性を考慮して安全を見越すための0.8を乗じた値を用いた漁獲圧一定方策とされた。

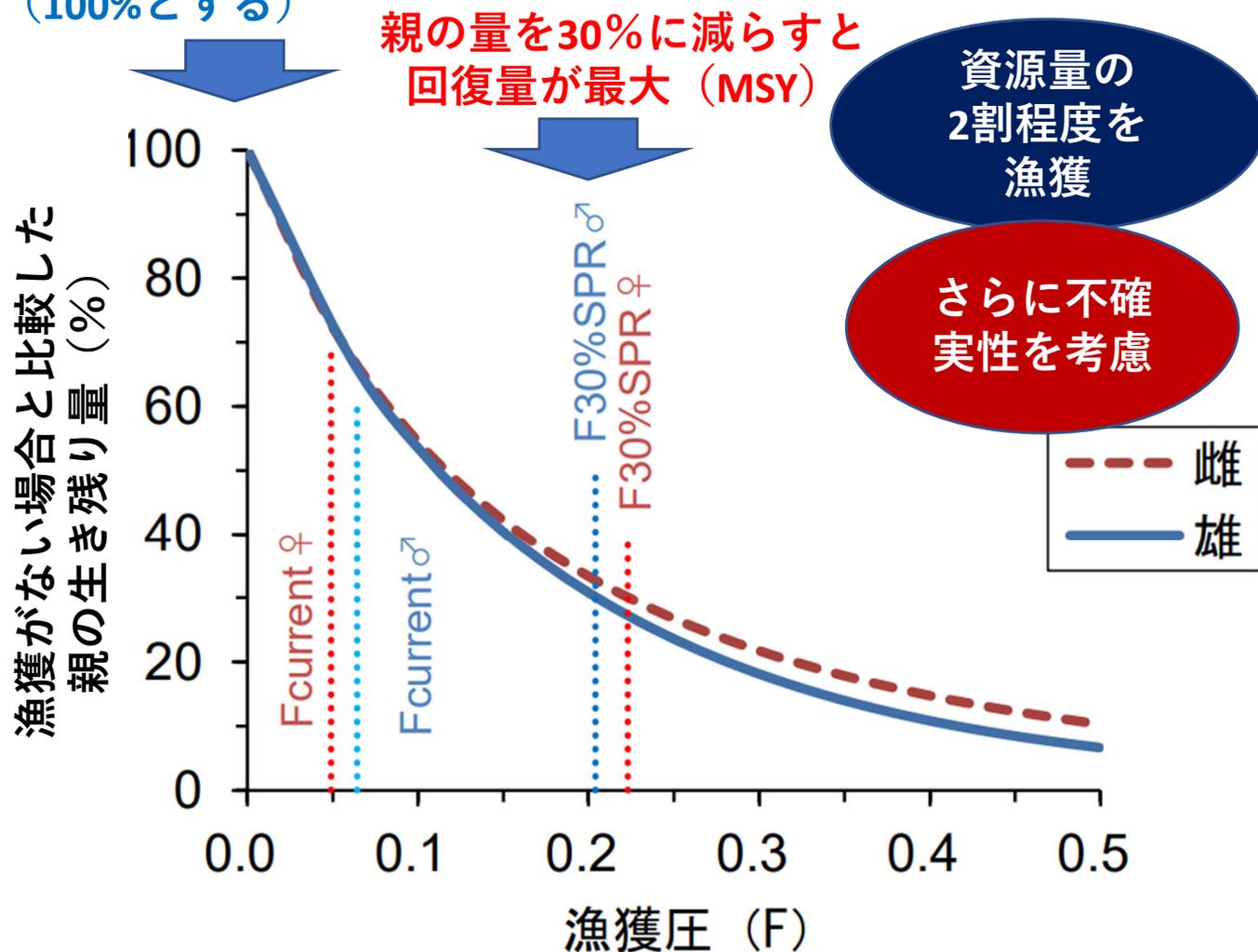
「資源量の15.6%を漁獲する」漁獲管理規則を採用



漁獲シナリオ（経験的な代用値）

漁獲がないときの親の量
(100%とする)

資源量の15.6%を漁獲しましょう



参考図9
漁獲シナリオの概要
最大持続生産量(MSY)
を達成するための経験
的な代用値(F30%SPR)の
考え方模式図



漁獲シナリオ（経験的な代用値）

資源量の15.6%を漁獲しましょう

漁獲がないときの親の量
(100%とする)

親の量を30%に減らすと
回復量が最大 (MSY)

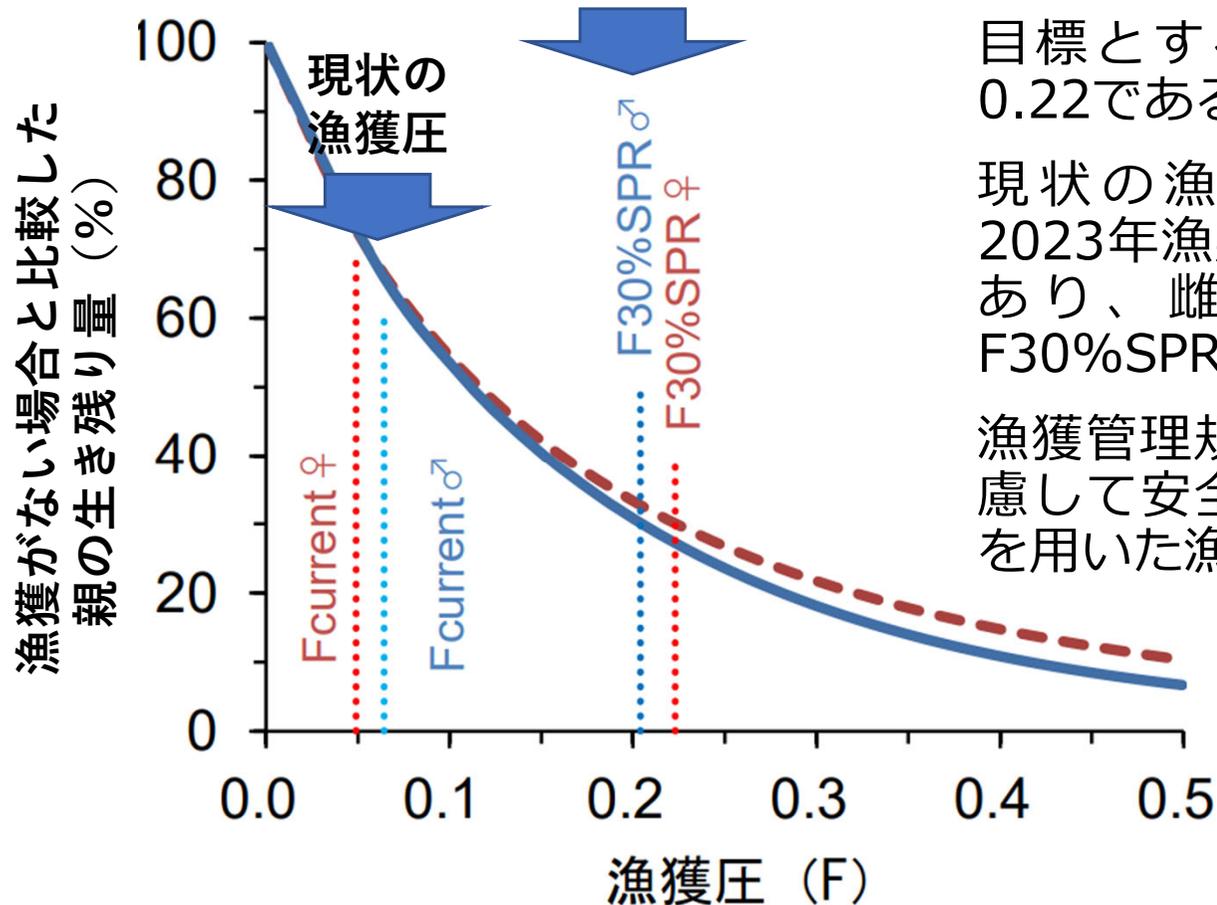


図4 MSYを実現する水準の漁獲圧 (Fmsy) の代替値 (F30%SPR) と現状の漁獲圧の比較

目標とするF30%SPRは雄が0.20、雌が0.22である。

現状の漁獲圧 (F2019-2023 : 2019 ~ 2023年漁期の平均) は雄0.05、雌0.05であり、雌雄ともに現状の漁獲圧は、F30%SPRを下回っている。

漁獲管理規則はF30%SPRに不確実性を考慮して安全を見越すための0.8を乗じた値を用いた漁獲圧一定方策とされた。



2025年漁期のABC（まとめ）

	親魚量 (トン)	説明
目標管理 基準値	-*	加入量当たり親魚量が、漁獲 圧が0の場合の値に対し30% となる漁獲圧で達成される親 魚量の水準
現状の値 (2023年漁 期)	2,289	かご調査に基づき推定された 雌の漁期後の資源量

* 目標管理基準値は将来予測に基づく推定値が得られるまで未設定である。

**2025年漁期の資源量予測値は漁期半
ばの資源量の過去3年平均値で代用
= 5,800トン**

2025年漁 期のABC (トン)	2025年漁 期の資源 量予測値 (トン)	現状の漁獲圧 に対する比 (F/F2019- 2023)	2025年漁期 の漁獲割合 (%)
910*	5,800*	3.53	15.6
<p>漁獲管理規則はF30%SPRに不確実性を考慮して安全を見越すための0.8を乗じた値を用いた漁獲圧一定方策とされた。 2025年漁期の資源量の予測値と漁獲管理規則(0.8F30%SPR)に基づき算出された2025年漁期のABCは910トンである。</p> <p>* ABCは十トン未満を、資源量は百トン未満をそれぞれ四捨五入した値である。</p>			

2023年漁期の漁獲量は246トン